

平成30年度 自己点検・自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver. 3.0 準拠版)

令和元年5月11日現在

学校法人ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西

令和元年5月11日作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	4	基準 4 教育成果	28
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか.....	5	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか.....	29
1-2 学校の特色は何か	6	4-20 資格取得率の向上が図られているか	30
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	7	4-21 退学率の低減が図られているか	31
基準 2 学校運営	8	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか.....	32
2-4 運営方針は定められているか.....	9	基準 5 学生支援	33
2-5 事業計画は定められているか.....	10	5-23 就職に関する体制は整備されているか.....	34
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	11	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか.....	35
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	12	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	36
2-8 意思決定システムは確立されているか	14	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	37
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか.....	15	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	38
基準 3 教育活動	16	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	39
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	17	5-29 保護者と適切に連携しているか	40
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	18	5-30 卒業生への支援体制はあるか	41
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	19	基準 6 教育環境	42
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	20	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	43
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか.....	21	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	44
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	22	6-33 防災に対する体制は整備されているか.....	45
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	23		
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	26		
3-18 資格取得の指導体制はあるか.....	27		

基準 7	学生の募集と受け入れ.....	47
7-34	学生募集活動は、適正に行われているか.....	48
7-35	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	49
7-36	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	50
7-37	学納金は妥当なものとなっているか.....	51
基準 8	財務.....	52
8-38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	53
8-39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	54
8-40	財務について会計監査が適正に行われているか.....	55
8-41	財務情報公開の体制整備はできているか.....	56
基準 9	法令等の遵守.....	57
9-42	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	58
9-43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	59
9-44	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	60
9-45	自己点検・自己評価結果を公開しているか.....	61
基準 10	社会貢献.....	62
10-46	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	63
10-47	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	65

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
建学の志 建学の志 ホンダ学園は世界に歓迎される人間の育成を使命とする。 学園の目的 チャレンジ精神に溢れ、人に愛され信頼される技術者を育成する。 育成方針 社会に歓迎される為の・・・ ・マナーとマインドを磨く ・実践第一の技術力を学びとる ・社会貢献の心と行動力を育む ホンダらしさに溢れ、環境変化に強い学校経営の実現	【平成30年度方針】 本学園では学校経営の根本である「建学の精神」の原点に立ち戻り、「世界に歓迎される人材の育成と環境変化に強いホンダらしい学校経営の実現」を中期目標と定めて有為な人材の育成に取り組んでいる。 18才人口の減少、大学進学率の上昇、整備士志望者の減少などにより経営環境の厳しさが増す一方で、ゆとり教育の影響による基礎学力や学習意欲の低下、目的意識の希薄化など若者の成長過程も年々変化しており、益々高度化する自動車技術に対応出来て社会から歓迎される人材を輩出するための教育現場での課題は大きい。 成長の基盤が脆弱な若者を導きながら、社会に歓迎される人間の育成に全力を注ぐことを「志」に置き、学生個々と向き合い、その成長と自立をサポートする教育の充実を推し進める。同時に、その教育内容と成果を積極的に対外発信し、選ばれる学園となることを目指す。 このため本年度より、下記に示す「新たな中期計画（3ヶ年）」を定め、その実現に取り組む。 【選ばれる学園の確立】 1. 学生・保護者に選ばれる学園の確立 2. 企業に選ばれる学園の確立 3. 選ばれるための基盤づくり また、重要性に鑑み、以下の4項目を主要関心項目として取り組む。 ①学生数の確保と質の向上 ②他校に先駆けた教育カリキュラムの進化 ③退学者の削減 ④国家整備士資格合格率100%の達成 ⑤学園基盤づくりのための「人施策」の実行と働き方の見直し

最終更新日付

令和元年5月11日

記載責任者

嶋津 和真

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	経営環境の変化に追従した内容の中期計画を作成し、進捗状況と課題等を計画に沿って検証する。	明確に定められている。	課題なし	学校法人ホンダ学園 事業報告書
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	進捗状況を定期的にチェックする。	今年は新たな中期経営計画を定めその中期計画に沿った活動を実施している。	課題なし	カレッジガイド シラバス
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	特に外部環境における事柄についてはその都度見直しをかける。	毎年、年度末には計画が適切であったかをチェックしている。また、結果により改善や見直しが行なわれている。	学校主体の社会貢献活動は実施されているものの、自発的な社会貢献活動に結びつくための教育を目指す。	カレッジガイド シラバス
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学校運営の基本的な考え方を示すもので、教職員及び外部にも周知する。	理念・目的・育成人材像等は、教職員及び外部にも周知されている。(ホームページ等に記載)	課題なし	カレッジガイド シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新たな中期経営計画を核として、年初に教職員に対して共有化を行い、計画的に実行されている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	【建学の志】を原点にホンダの持つ資源（Honda Cars の最新の取組み・Honda 最新技術・開発手法）を活用して知識と技術を 提供できる教育環境を構築する。	特色＝差別化と考えている。 他のメーカー校では出来ない特色（二輪車教育）＝ホンダでしか出来ない教育を行う。 特に、自動車研究開発科の取組みでは、モノ造りのプロセスを実践的に学ぶ教育を実施している。	二輪車教育の優位性が薄れてきており、メーカー校ならではの最新技術教育を発展させて行く。そのための最新車両を本田技研工業㈱の協力を得て確保する。	カレッジガイド ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
豊富な種類の教材によりメーカー校の優位さを強調している。 また、一級自動車研究開発学科の特色を広く発信して、高校への認知度の向上を図っている。	人としての基礎・基本（マナーなど）を徹底的に体得させ、企業から期待される人材を育成する事を目指している。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	学校の将来構想は、中期3年計画により立案・計画・実行する。	中期経営計画を作成（平成30年度から令和2年度までの3年間）とし、各年度の事業計画に基づき実施している。	環境変化への対応等が必要。	学校法人ホンダ学園 事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
18 才人口の減少や大学全入、若者のクルマ離れなどの影響により、整備士や技術者を志す学生が年々減少している。 本学園においては、学生数の減少により財務状況が悪化しており、その改善が急務である。また、今後一層経営環境が厳しくなる状況に対応するための改革が求められている。 本学園では、経営改革の道筋をつける中期 3 ヶ年計画を構築し、「選ばれる学園の確立」を目的に全教職員が一丸となってこれに取り組んでいる。 学生個々の自立を支援し、また、企業ニーズに合致する質の高い教育を提供しつつ、学生数の減少に見合う効率的かつスリムな学校運営活動の実現を目指す。	中期計画の方針 【選ばれる学園の確立】 ①学生/保護者に選ばれる学園の確立 ・就職・進学率 100% の達成 ・退学率 3% 以下の達成 ・必須資格合格率 100% の達成 ・競合他校に先駆けたカリキュラムの進化 ・修学環境の整備と充実 ②企業に選ばれる学園の確立 ・企業ニーズに基づく輩出学生の質の向上 ・企業ニーズに基づく輩出学生数の確保 ③選ばれるための基盤づくり ・教職員の質（研修の充実）と活力（プロ意識改革）の向上 ・働き方の見直し（教職員としての労働環境の構築） ・カレッジガバナンスの質の向上 ・他校に先駆けた IT の進化 ・中期人施策の企画と実行

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	五月女 浩
--------	----------------	-------	-------

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	建学の志、学園の目的に基づき、年度の運営方針を明確に定める。	年度初めに方針と目標を明確に定めている。	課題なし	学校方針
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	年度初めに説明を行う。	年度初めに方針と目標を明確に説明している。	課題なし	学校方針
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	学校経営に必要な各種諸規定を整備する。	各種諸規定は整備されている。学校経営は監督官庁の下に営んでいるので、常に各種規定に必要な最新情報に注視している。	課題なし	組織役割・事務分掌、学則、細則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確に定められている。 運用についてもスムーズに展開できている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	学校経営を円滑に営むために、事業計画を定める。	年度における事業計画は年度初めに定め、必要な部門に説明している。	課題なし	学校方針
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	事業計画作成時に実行計画及び予算計画を示し運営する。	事業計画、実行計画及びそれに基づく予算計画を年度初めに定め、必要な部門に説明し進捗を管理している。	課題なし	学校方針

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期計画を踏まえ年度毎に実行計画（予算含む）を決め、各校の部室科長会にて共有し、ブレイクダウンを実施している。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	学園全体の運営組織図を活用し、業務を組織的にスムーズに遂行する。	学園組織運営図は、法人本部にて月初めに改廃をし、最新版にしている。教務での役割を示した運営組織図を期初に改定し、運営している。	課題なし	ホンダ学園組織図 役割担当表
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	運営組織や意思決定機能は、よりシンプルなものとし、学校の目的、目標を達成するために迅速かつ的確な行動が取れるものとする。	ジョブローテーションによる育成と教職員の適材適所への配置を行っている。	課題なし	↑
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	教職員の役責を職務分掌で、明確に示すこと。	職務分掌と責任は明確になっている。	課題なし	↑ 組織役割・事務分掌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織図を提示することにより、各自の役割が明確になる。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	監督官庁から示された定員学生数に対応できる教員の人数を十分に確保する。	学生数の減少に伴い、定員学生数と実学生数とに乖離が生じており、実学生数に対する教員は十分に確保している。	学科構成の変更に伴い実態に即した定員学生数の改定を順次行う。	国交省一種養成基準書
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	人事考課は、本田技研工業㈱労働協約適用人として進めている。	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	昇進・昇格は、本田技研工業㈱労働協約適用人として進めている。	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則
2-7-12 賃金制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	賃金制度は、本田技研工業㈱労働契約適用人として進めている。	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則
2-7-13 採用制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する。	教職員の採用は、本田技研工業㈱労働協約適用人として進めている。	課題なし	ホンダ学園組織図

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	教職員の状況を常に把握しておく。	常務理事会にて要員計画を管理している	課題なし	ホンダ学園組織図

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本田技研工業(株)労働協約適用法人として、運営している。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-8-15 意思決定のシステムは確立されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会を運営する。 両校では、部室科長会、教育会義、リーダー会議で意思決定する。	年3回の理事会・評議員会と月1回の常務理事会を開催している。 各校では週1回の部室科長会、隔週1回のリーダー会議と必要に応じた教育会議が運営されている。	課題なし	ホンダ学園 運営規程
2-8-16 意思決定のプロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会を制度化する。	定期開催をしている。	課題なし	ホンダ学園 運営規程
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	理事長を最終決定者として理事会・評議員会を運営し、常務理事を運営意志決定機関の決定者として常務理事会を運営する。	定期開催をしている。	課題なし	ホンダ学園 寄附行為 ホンダ学園 運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
必要な会議を定期的に開催しており、意思決定システムは効果的に運営されている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	学園独自システム（学事と財務）と Honda グループのシステムを併用し運用する。	学事システム、財務システム、Notes データベース、出張外出システムを活用している。	学事システム、財務システムはあるものの、効率的なシステムとは言えず改善が必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現状の学事システム、財務システムは機能しているが旧式であり、更なる効率化のために新規システムの導入検討を進めている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「社会ニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成」という教育理念の基に教育活動を展開している。 技術・知識は勿論のこと企業が求める人材を育成するため、基本的なマナー及び接客マナーを身につけた人材の育成に努めている。 近年の自動車技術の高度化に伴い技術レベルは向上しているが、整備士を目指す若者（自動車整備専門学校に入学する学生）の基礎学力低下は顕著であり、教えるべき内容と学生の能力との格差が年々広がりつつある。この格差を縮めるには教員のスキルアップ（分りやすい授業展開能力）が必要不可欠となっており、職員研修及び授業研究などにより教育レベルの向上に努めている。また、ニーズの多様化によりいろいろな学生（自動車に興味を示さない学生等）が入学してきており、いかに興味をもたせるか自動車好きにするかが、大切である。 自動車研究開発科においては、人間性豊かでモノづくりを行うモビリティ領域で幅広く活躍できる人材を育成することを基に教育活動を展開している。四年制大学教育に勝る内容での短期間教育で基礎学力、応用力の育成、合わせて実践力（考動力）育成や世界での活躍を睨んだ語学力（英語）の強化など多岐にわたっているが、いずれも社会に求められる人材という観点から教育に努めている。 以上の状況を踏まえて、日々の教育活動を展開している。	<u>I. 学生/保護者に選ばれる学園の確立</u> ●就職・進学率100%の達成 ●退学率3%未満の達成 ●必須資格合格率100%の達成 （一級二級整備士/危険物/損保募集人） ●競合他校に先駆けたカリキュラムの進化 （新技術教育の提供、先進教育システムの導入、開発系学科の進化） <u>II. 企業に選ばれる学園の確立</u> ●企業ニーズに基づく輩出学生の質の向上 （企業CS：No1の獲得） ●企業ニーズに基づく輩出学生の募集 （全国の企業への学生の輩出） <u>III. 選ばれるための基盤づくり</u> ●教職員の質（研修の充実）と活力（プロ意識改革）の向上 ●カレッジガバナンスの質向上 （内部統制強化を踏まえた職業実践専門課程への申請と第三者評価委員会設置検討）

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の人材ニーズ及び要求レベルの高まりに対し、企業と連携し教育内容の見直しを行う。	すべての学科においてインターンシップを実施し、学生の意識付けを行っている。また、教職員が企業訪問を行い、情報収集を実施している。	学生の基礎学力低下が顕著であり、教えるべき技術と教えられることとの乖離が広がりつつある。 企業から求められる学生像もとに教育内容の見直しを図る。	整備士試験合格率 CS調査 インターンシップ評価表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科の教育目標、育成人材像については各科育成像を明示し、その目標に向かって日々人材育成に努めている。二級整備士試験の結果は一般の合格率に対して高い結果となっており、企業ニーズに応えられているが、100%の合格を目指す。 一級整備士については、更なる合格率の向上が求められているため改善が必要である。 企業ニーズの把握については、すべての科においてインターンシップを実施しており、教職員の企業訪問により情報を収集するとともに、授業に反映させている。	国家試験対策については、関東校、関西校のプロジェクトで運営し、100%の合格を目指している。 自動車研究開発科については担当教員による企業訪問（卒業生調査）巡回などにより課題の明確化と今後の取り組みを検討している。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	標準教育時間以上の時間数を確保し、知識、技術についてホンダの最新技術を含め業界が求めるレベル以上の教育を提供する。	整備士養成課程の学科においては、監督官庁から標準教育時間数が明示されており、その基準に沿った教育期間となっている。合わせて一般科目の実施により、業界が求めるレベルを更にカバー出来る体制としている。	学生の基礎学力低下が顕著のため、個々の能力を見極めた指導方法の開発に努める。	進級卒業認定資料 指導記録 指導要領

点検中項目 総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車技術の進化速度は速く、学生能力の低下からくる学校教育と業界の求める整備士技術との差が大きくなってきているが、常にカリキュラムを見直し、内容を検討している。 自動車研究開発科においてはモノづくりに対する基本の取組み姿勢を基に“考動力”のある人材の育成ができるカリキュラムの実施にて業界が求めるレベル以上になるよう検討推進を図っている。 合わせて今後の業界ニーズに必要な分野（電子制御系など）もリサーチしながら教育のレベルを向上させていく必要がある。 企業の求める人材ニーズレベルは年々高くなっているが、企業に入社後、伸びる人材とするため、必要となる知識・技術は身に付くような授業を心がけている。	人間性の育成は、専門学校入学前の教育環境の違いにより既に格差が生じている。様々なフォローを行い、専門学校の教育期間内にて業界が求めるレベルに到達出来るように指導・教育を実施しているものの到達しにくい学生も増えつつある。

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	----------------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科の カリキュラムは、目標 達成に向け十分な内容 でかつ体系的に編成 されているか	国土交通省が定めた標準教育 時間数に沿った内容とする。	整備技術習得、資格取得には 十分な内容であり毎年見直しを 行っている。	課題なし	指導要領
3-12-4 カリキュラム の内容について、業界 など外部者の意見を反映 しているか	現場で求められる内容を 調査し、カリキュラムに反映 する。	教育課程編成委員会の開催や 卒業生の就職先を訪問して、 企業の責任者および卒業生から 情報を収集し、カリキュラム内容 に反映している。	課題なし	C S 調査
3-12-5 カリキュラム を編成する体制は明確 になっているか	該当年度の指導カリキュラムに ついて確認する審査会を実施 し、目標等に相違がないかを 確認する。	カリキュラムを編成・検討する教 育体制は運営組織図で明確になっ ており、それを基に審査会・リーダ ー会議を実施している。	課題なし	組織図 教務役割表 問題審査会資料
3-12-6 カリキュラム を定期的に見直して いるか	企業ニーズ、社会情勢、 学生ニーズを捉えて カリキュラムを毎年見直す。	自動車整備科、一級自動車整備 研究科、自動車研究開発科の カリキュラムは見直されている。	課題なし	指導要領 (※当校はシラバスではな く、指導要領を作成し運営)

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。監督官庁である国土交通省が定めた標準教育時間に沿う形でカリキュラムを見直している。	学生の基礎学力の低下が顕著であるため国土交通省基準を遵守しながら、学生の能力や技術革新に合わせた授業内容の改革を行う。 新技術・次世代技術に対応できるよう、現状の課題に照らし、より良い人材育成が出来るように変更を実施していく。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目毎に整備士養成課程の標準教育時間に適合させる。	適正にカリキュラム中に位置付けされている。	課題なし	教育時間配分表 指導要領
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	各科毎の授業時限数、授業時間割、指導目標等を定めた指導要領を作成し、それに沿った授業を行う。	各科毎の授業時限数、授業時間割、指導目標等を定めた指導要領を作成している。	シラバスの作成と開示を推進する。	指導要領 (※当校はシラバスではなく、指導要領を作成し運営)
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	学科、実習とも一コマごとに指導要領を作成し、教育内容、習得目標などを明確にする。	各科目の一コマの授業に対して指導要領を作成している。	シラバスの作成と開示を推進する。	指導要領 (※当校はシラバスではなく、指導要領を作成し運営)

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムは教務担当者(学科リーダー)による見直しを審査会にて行っており、必要であれば変更している。 シラバス及びレッスンプランは当校では指導要領及び教案であり、その作成については継続して行っており、今後は教職員間で内容について協議するなど、さらに内容の充実を図ることを考えたい。	指導要領・シラバスは資源節約（紙の節約）及び担当の入替り対応などのため学校内のパソコンで閲覧可能状態となっている。 体制が整えば今後はホームページにて公開する計画も検討する。 また、企業の求める実習授業と資格取得授業との整合に努める。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	社会人として環境に適応できるためのキャリア教育は必要であり、重要な教育と位置付けている。	整備士養成施設であるため、整備士として必要な知識・技術のほか、社会人として必要な教育も行っている。	課題なし	教育目標 指導要領
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	専門学校の社会的貢献はキャリア教育にあるので、教育内容の検討において、その実効性を常に検証する。	教育課程編成委員会や卒業生の配属先の訪問による情報交換やCS調査により、教育効果を確認している。	課題なし	CS 調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国土交通省から整備士養成施設として指定を受けているため、整備士として必要な知識・技術の教育活動を実施しているほか、社会人として必要な教育も行っており、キャリア教育は実施できている。教育の実効性の検証においては、CS 調査を実施している。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	学生による授業評価を定例実施する。	各授業（学科、実習）終了時に授業アンケートを実施し、まとめている。結果についてはリーダー会議等で報告し改善を図っている。	課題なし	学生アンケート
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき、学科や学校として把握・評価する体制があるか。	各科目において担当者同士が授業評価を不定期に実施する。授業アンケートにおける授業評価も行い、改善につなげる	リーダー・学年・単元会議等にて授業アンケート結果共有とそれからの改善点の確認・対応検討などを図っており、本人へのフィードバック及び部科長が評価指導を行っている。また、部科長による授業巡回確認も実施している。	課題なし	学生アンケート 授業巡回チェックシート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価を実施しており、評価結果については、評価とりまとめ担当者が職員会議の中で発表するとともに、詳細についてはデータを教職員の中で閲覧できる体制となっている。 必要に応じ個人評価データについても確認し、授業改善へフィードバックを図っている。 職員への個別面談でも活用しており、教職員個人の目標に関連付けをしている。	各授業のローテーションが終了する毎に、授業アンケートを実施。教職員個人の意識に差があるため、研修等も活用し継続的な改善を図る。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向けた授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設（国土交通省）の指定基準に従い指導員登録を行う。 （基準を満たしていない教員は補助教員として登録）	基準を満たす教員は確保している。 一級資格取得者は更に増やす必要がある。 自動車研究開発科の二級整備授業内容への対応は更に必要。	一級資格取得者及び自動車研究開発科担当教員の二級整備士資格者の増員は継続的に推進。 加えて、女性整備士の増強のために、女性教員の確保を推進。	組織図 指導員一覧表
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	国家資格については二級以上を取得する。 新技術については外部研修に参加、既存の教員研修等へも参加してレベルの向上に努める。	第一種養成施設の指定基準はクリアしている。 新技術については、Honda新機種講習等により最新業界レベルに対応している。 一方、若手教員は経験不足、ベテラン教員は新技術への対応などの課題がある。	教職員の資質向上を図るために、様々な授業を幅広く受け持つ体制を構築する。 各々のスキルに沿った研修などの受講により、一層のスキルアップを図る。外部との関わりを持つように積極的に研修等へ参加させていく。	指導員一覧表
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	職業履歴及び Honda の資格認定基準に沿って専門性を把握し、評価する。	整備経験年数（教員経験年数）と取得資格及び担当科目の経験年数で専門性を把握し、基準に基づいて評価している。	課題なし	指導員一覧表
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	外部研修、内部研修を計画的に実施し専門性を向上させる。	個人参加型技術講座への参加 大阪府教員研修への参加 スキルアップ講習・他校交流会 その他 JAMCA 主催研修へ参加している。	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか	学生と他の教職員の意見をもとに教授力を評価する。	学生による授業アンケートや授業巡回などを実施し、個々の教員の能力を把握し評価している。	課題なし	学生アンケート
3-16-19 教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか	教員ごとの能力、役割ステージに応じた研修を行う。	新任教員は新任教員研修に参加している。教職員全体での研修は時代に合わせた継続的な強化が必要である。	教授力を向上させる研修は、内部及び外部の講師により教員の能力に合わせたものを準備しスキル向上を強化する。	
3-16-20 教員間（非常勤講師も含めて）で適切に協業しているか	定期的実施する科目リーダーの会議及び個別での学年会議等で教育面、管理運営面について意思疎通を図り適切に協業する。	日頃からの意思疎通を通じて他の職員と適切に協業している。非常勤講師についても日常業務において協業できている。一方、他の科・学年間では業務が異なり、協業できないことがある。	他の科・学年間での協業については、リーダー会議等を通して情報共有を図り、協業を促進する。	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	常勤教職員同様	常勤教職員同様	常勤教職員同様	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	自動車整備系： 国交省基準に則していること 開発系： 科目に必要な専門性を有していること	基準に則した採用を行っている	課題なし	非常勤講師契約書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備専門学校は第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格（整備士資格）、整備経験年数及び学歴等を満たした教員採用をしている。また、一級未取得教員に対しては、取得済み教員が教育を行うなど教員として必要な指導を実施している。今後は、技術的な進歩に対応でき、指導力を向上させる様、個々のスキルアップは必要不可欠であり、そのような優秀な人材を採用することも合わせて検討する必要がある。	各自動車メーカー現場経験教員（整備士経験）を有しており、教材についても他メーカーも考慮して揃えているため幅広い教育が可能である。また、研修に参加する職員に偏りがあるので、職員の経験や能力に応じ、計画的に参加出来るよう調整を図る。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価、修了認定の基準を学則及び細則に定める。 当校は単位認定ではなく、履修時間数及び評価による修了認定としている。	学則および細則と合わせて評価規定は、明確となっている。	課題なし	学則・細則 試験規程
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	大学の単位変換を基本とする。	当校は90分単位の授業であるが、50分単位に変換後、大学の単位変換基準に基づき算出している。	課題なし	換算基準時間 学科：20 時間/単位 実習：40 時間/単位

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、その基準に従い教員、非常勤講師は成績評価をしている。また、学生には学則および細則抜粋を全員に配布し周知徹底している。	学科についてはペーパーテスト、実習については実習レポート評価と実技試験または、作品の出来栄で評価している。 その他、日常における授業への取組み姿勢での加減点も考慮される。 履修は単位認定ではないため、他の教育機関との単位互換は基準値を用いて実施している。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	1 種養成施設の要件である教育時間数とカリキュラム内容を満たす。	国家整備士資格を取得できるためのカリキュラムであり、明確に定められている。整備士以外の資格は、選択授業として取り組んでいるが、危険物等の各種資格に対して、学生の取り組み姿勢の向上が課題である。	危険物等の各種資格については、キャリア教育での必要性を判断し、必要最低限の資格受験体制としている。	
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	個々の学生の能力に的確に対応し、二級整備士、一級整備士資格とも100%の合格率を目標とする。	毎年、登録試験対策プロジェクトの体制をとり、各級とも取得を強力的にサポートしている。また、低学力者の個別指導体制も強化している。 平成30年度の二級整備士資格については98.6%の合格（無資格者1名）であった。	惜しくも二級整備士において無資格1名となってしまった。対策プロジェクトの改善を含め100%合格が必達を使命として対応を図る。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備士資格以外はカリキュラム上、取得可能資格として、資格取得のサポートをしている。基本はすべて必須取得としてニーズにより選択できる体制をとっているが合格実績（合格率）は最近低迷している。 今後は、サポート体制の改善が求められる。	放課後等の時間外を利用した資格対策を実施しているため、授業時間内でサポートできる体制を構築する必要がある。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

基準 4 教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校生活の中で、学生個々にしっかりと目的意識を持たせることで、資格の合格に向けた努力や意欲が見られ、良い成果を上げている。 一級自動車整備士の合格率においては問題出題傾向の変化に十分な対応が図れずに苦戦しているが、全国合格率23%前後（平成29年度）と比較すれば、高い合格率となっている。 今後も教材の改良に加え、資格取得に対するモチベーションの向上・維持に大きく左右する要因である学生同士が励まし教え合う良い雰囲気をクラスの中に創ることが成果に結びついていくと考える。 退学率低減の取り組みにおいては、日々の授業や学生指導の方法を常に見直すことが必要であり、教職員はその変化に対応しなければならない。 校外オリエンテーションや個別面談による早い気付きと指導を推進してきた。平成27年度まで退学率が高い傾向を示していたが、意欲向上施策、興味促進施策、日常指導の改善などにより減少傾向にシフトして来ている。 ゆとり教育世代学生がピークを迎え、社会環境の変化などもあり、学生の思考そのものが変化している傾向に対して今後も継続的な対応を図っていく事が必要と考えられる。 また、就職活動においては、就職斡旋希望者の内定率が毎年100%を達成しており、日常の教育成果であると認識している。 就職先は整備士や開発技術者を選択しているが、その就職先企業様の中においても、卒業生はそれぞれのポジションで中核を担い、社会に貢献している。	1. 就職内定率 就職斡旋希望者の就職内定率は毎年100%を達成している。 一方、学生の就職活動意識が変化し、100%内定達成時期は、年々遅くなる傾向が見られる。 2. 資格取得率 主要資格については毎年高い合格率となっている。（H30年度） ・二級ガソリン自動車整備士…全科合格率 99.3% ・二級ジーゼル自動車整備士…全科合格率 97.9% ・一級小型自動車整備士 … 合格率 81.8% 3. 退学率・休学率 退学者数の目標を平成30年度は全科3%以下と定め、指導を実施。 ・平成30年度 退学率4.7%（前年度比－0.1%） 4. 社会的な活躍・評価 ホンダサービス技術コンクールでは、入社1年目より優秀な成績を収め、数年後は全国大会に出場するなど、良い評価を得ている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	学校幹旋で自動車業界を中心に就職活動をする学生については、責任をもって全員の内定を得る。	内定率は目標の100%を達成している。	課題なし	就職先系列別就職状況
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	求人情報を的確に捉え、就職成果を注視しながら、求人情報をタイムリーに提供する。	月毎に就職状況の進捗について、表及びグラフを掲示し、進捗管理を行っている。	課題なし	月度別内定実績

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
クラス担当及び就職指導担当者が協同し、着実に学生が就職活動を行えるように指導を行っている。 学生の中には、学校からの支援を必要としない自己活動を希望する者もいるため、個々の状況に応じて指導をしている。	自動車整備業界の就職活動時期が早まっており、学生にとっては早期対応が望まれている。 活動時期としては、卒業年度の前年から始まり、翌年末終了を目標に推進している。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	学生の変化に的確に対応し、一級整備士、二級整備士資格とも、100%合格を目標とする。	一級整備士は合格率81.8%に留まる。 二級整備士はガソリンとジーゼルの合格率は全国平均を上回る高い合格率であった。しかしながら無資格者が1名発生し、全員が二級整備士資格を取得できなかった。	毎日の小問題演習や個別補講等の反復学習を充実し、今後一層の学力の定着を図る必要がある。	
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	資格取得者数および推移に関する情報を明確に把握し、資格取得率向上に努める。	合格発表と共に担当者が資格取得状況の報告書を作成し、必要な部門に報告している。	課題なし	登録試験報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校生活の中で、年間を通してそれぞれの資格対策において、学生には個々の資格取得、合格率100%の達成に向けた努力や意欲が見られる。	学生毎の学力格差が大きくなる傾向にあり、能力別の的確な対応を行っている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	退学率3%以下を目標として取り組む。	平成30年度では、入学後のオリエンテーションの充実や低学力者のフォロー、担任面談の充実やカウンセラー活用向上を図った。結果、4.7%と昨年度同様に留まることは出来たが、目標は未達であった。	メンタル面の弱さや成績不振から意欲を無くし退学する傾向がある。 友人づくり、クルマへ興味を高める授業、個別フォローを充実させ、修学を継続させる仕組みを構築する。また休学者の復学率は低い傾向にある。	退学まとめ
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入学時の学生数およびその後の退学に伴う在学者数の推移を適時把握し、退学者の削減対策に活かす。	休退学手続きの終了後に学籍システムへの入力を行い、月末統計表で把握できるようになっている。	課題なし	在籍人数表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減に関する目標は数値化され、またその低減を図るべき明確な方針が年度当初に掲げられており、その目標に向け教務部、担任、教科担当が各々自覚を持ち日常の学生指導にあたっている。また、カウンセラーとの相談も重要なファクターとなっている。 合わせて、学生の思考・環境は年々変化しているので、教職員も変化に対応した指導力・対応力が求められる。	従来は退学理由の中で最も多いのは成績不振であった。平成30年度は進路変更が最も多く、自動車への興味はあるが他の方向に転換するケースが多くなって来ている。又、他に相談することなく退学を申し出る学生も多く、教員と学生のコミュニケーションの更なる充実が求められている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	CS調査アンケートや訪問聞き取り調査を行い、授業にフィードバックする。	CS調査アンケートや企業訪問を実施し卒業生の状況や学園への要望等を収集している。しかしながら収集した情報を教育や指導に十分に活かしてきれていない。	CS調査や販社訪問により集められた情報を精査し、教育や指導に反映させる。	インターンシップ報告書 CS調査
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	Hondaの主催するサービス技術コンクール等での活躍を把握し、紹介する。	ホンダサービス技術コンクール等へ出場し、整備技術コンテストにおいて全国代表に選出されるなど、技術力においても高い評価を	課題なし	
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	表彰制度を充実し、学生全体のやる気を高めて行く。	始業式で同好会活動等の成果を報告し、学生全体のやる気を高めている。	課題なし	
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	上記と同じ	【F-SAE】 US大会 総合 56位 / 73校 【エコマイレッジ】 鈴鹿大会 総合 2位 / 22台 全国大会 総合 DNS	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備領域においては、サービススタッフの職種で一定以上の評価を得ている。 開発領域においては、各メーカーでの活躍が期待されており、企業からの評価も高い。	F-SAE参戦においては、日本大会だけでなくグローバルな人材を育成する観点より海外大会に参加していたが今回が最後の海外大会出場となった。今後は日本大会での人材育成を図る。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	寺尾 典篤
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の学生支援には次のようなものがある。 1. 進路指導 2. 学生相談 3. 経済的支援 4. 学生の健康管理 5. 課外活動 6. 学生寮 7. 保護者との連携 8. 卒業生への支援 これらについては、教務部、学務室の各部署が担当し、学生が充実した学校生活を送れるよう最善を尽くしている。 これにより、豊かな人間性を養い、社会の中で活躍する学生を育てていく。	1. 進路指導には就職・進学とある。就職希望者の内定率 100%を目標とする。 2. 学生相談は、教職員のカウンセリングスキルを向上させて、適切な助言等ができるようにする。 3. 奨学金制度を広く適用し、学生の経済的負担を軽減させる。 4. 年 1 回の健康診断の実施と保健室を設置している。 健康管理は、学校指定総合病院で行っている。 5. 本校後援会からの支援により、同好会活動などが活発になされている。 6. 150 部屋の学生寮を完備し、県外学生を優先的に入寮させている。 7. 保護者との連絡は、電話または文書連絡等で行い、必要に応じて三者面談を実施している。 8. 本校同窓会においては、HP を活用して支援活動を行っている。

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	本多 章浩
--------	----------------	-------	-------

5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	就職担当職員が進路先と連絡を取り合い、担任を交えて学生とのコミュニケーションを図り、必要な情報の提供と就職の機会の提供をする。	就職相談室を含め、就職担当職員及びクラス担任が連携し、円滑に運営されている。 無料職業紹介所の届出済み。	課題なし	職務分掌
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	就職担当職員による説明会、また、学園内での企業セミナーを行い、学生へのきめ細やかな指導を行う。	学園内にて、ホンダ学園賛助会企業セミナーや一般企業セミナーを実施している。	課題なし	就職活動スケジュール表
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	随時、適切なアドバイスを与えることのできる体制を整える。	就職担当職員は就職相談室にて昼休みや放課後の時間を使って学生との対応を十分に実施している。また、放課後を利用して担任との面談も実施されている。	課題なし	
5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	企業セミナー、企業訪問、採用試験に対して、事前に必要な指導を行う。	「就職の手引き」を製作・配布し、担任を通じ、具体的に就職活動の進め方を指導している。 適性検査を就職活動前に実施し、学生の自己分析に活用している。	課題なし	就職の手引き

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人企業開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、ホンダ学園賛助会企業と綿密な連携を保ちながら多数の求人を獲得している。	就職活動は、学校と企業とが合意の上で行われる。 例えば、学内での企業セミナー実施や学校経由での企業訪問・採用試験エントリーなどである。 企業訪問後の受験、一人1社受験をルール化して、公正な就職活動を行っている。

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	相談室を開設し、開設日、相談担当者を学園ガイドで明確にする。また、各クラスに1名以上の担任をおく。	相談室は週1回開設している。学生からの相談は、主にクラス担任が担当する。更に、それを学年のリーダーがカバーする。女性教職員による女子学生の相談にも対応している（女性教員を採用）	課題なし	学園ガイド
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	専任のカウンセラーを配置し、専門的なアドバイス体制を構築する。	週1回、専任カウンセラーが来校し、対応している。また、クラス担任制を敷くことで学生からの相談にクラス担任が適時対応している。	課題なし	学園ガイド
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生特有の相談を想定し、担当者を選任し対応する。	日常及び学校生活について選任された者（外国人職員を含む学務室留学生担当者）が担当している。	更に増加が想定される留学生に対応する為、留学生担当者のスキルアップを図る。	学園ガイド

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の相談に対応するための体制は整っている。 個人の持つ悩みや問題を解決するため指導や助言を行い、充実した学生生活を送ることができるように、相談を進めている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	より多くの学生への学びの場と なれるよう、奨学金制度を整備 する。	日本学生支援機構、ホンダ学園内 賛助会の奨学金制度が有効に 活用されている。	留学生への奨学金制度を確立さ せることが今後の課題であり、賛助 会加入企業への協力要請を推進 する。	学生募集要項
5-25-9 学費の分納制度 はあるか	学費の分納制度を採用し、 学び易い環境を整える。	前後期の分納制度を採用して いる。 教育ローン会社との提携を追加。	課題なし	学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門 学 校評価基準を十分に満たしている。 課題は、近年留学生を含めて授業料納付困難者が増加している点を踏まえて、この 制度をより充実させる点である。	ホンダ学園賛助会の奨学金制度では、ホンダ関連の企業に就職を目指す学生に 優 先的に給付されている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	学校医による支援体制を設ける。	隣接する総合病院を学校医として委託契約を結んでいる。 毎年度当初に全学年を対象に学校医による健康診断を行い、学生の健康管理を実施している。	課題なし	年度カレンダー
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	学校医による支援体制を設ける。	必要に応じて学校医に相談している。	課題なし	産業医委嘱受諾書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校医の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。 学生の登校状況、保健室の利用（傷病の申し出）状況は毎日管理され、心の健康（メンタル相談）にも配慮している。	学生個々の健康状態については、必要に応じてクラス担任から学務室に連絡され、隣接する総合病院で、適切かつ相応な対応処置がなされている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	同好会活動を通して、個性の伸長、指導力、安全思想、友愛と協調の精神を育むことを目標にしている。授業と並立することで一人ひとりのもつ多様で特色ある能力や個性を効果的に伸ばす。	自主活動として顧問教員によるサポートを行っている。 必要な費用は後援会費より支出しており、保護者の理解のもと推進体制が作られているが、現在の同好会参加学生率は4割程度であり参加学生率と活動の質の向上(競技成績の向上)が必要である。	学生の参加率向上を目指し、入学後の早い時期に同好会活動の魅力を広く発信し、活動への誘引を図る。また、エコマイレージやEV等の車両製作において、製作経験を持つ教員を顧問として配置し技術のレベルアップを図る。学生の希望に対し、ミニバイクやN-ONEオーナーズカップのレース参加を推進する。	部・同好会活動報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同好会活動などの課外活動への支援を積極的に行っている。 H o n d a グループの強みを活かし、更なる支援体制の充実を図る	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮を持ち遠隔地出身者を優先的に入寮させる。 また、舎監が常駐しており、適切な生活環境を整備する。	遠隔地出身者を優先的に入寮させている。 入寮希望者が募集者数を超える場合には、入寮できない学生に、近隣の不動産業者等を紹介している。 時代に合わせ、門限等の寮規則の見直しを行なっている。	寮生へのCSアンケートを実施し、寮規則の見直しを逐次推進する	カレッジガイド 学生募集要領 アパート情報

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠隔地出身者のためのサポート体制を有効に機能させ、 学生が新しい環境に早く馴染めるような配慮がなされている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか	後援会総会、後援会役員会、保護者見学会等を通じて学校の状況を報告し十分な連携を図る。学生が学業と学園生活を充実するため、必要に応じて、その都度連携を行う。	・後援会総会 年1回 ・後援会役員会 年2回 ・保護者見学会 年1回 開催 必要に応じて、保護者との面談や学生を交えて三者面談の実施している。	課題なし	学園ガイド

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
後援会総会、後援会役員会、保護者見学会等を通じて学校の状況を報告し十分な連携を図る。 出席状況、成績状況など、必要に応じ保護者に来校頂き、学生本人と担任を含めた面談を行い、保護者と連携をして適切な指導を行っている。	状況に応じ、リーダー、科長、部長などが三者面談を行う。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会を組織する。	同窓会が組織されている。 現状は、個別の同窓会開催情報があれば、ホームページ等で紹介している。	課題なし	同窓会会則
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	教職員が就職先を訪問し、卒業生情報を収集してフォローする。	在校生のインターシップ先の企業訪問時に卒業生就職先企業から情報を収集し学生管理システムに反映している。	課題なし	学生管理システム台帳

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会に対する支援活動を行う。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は建学の志にある「世界に歓迎される人間の育成を使命」とし、「人に愛され信頼される技術者」を育てる場としての校地と校舎、学生食堂、学生寮を完備し、教育上の必要性に十分対応出来る様に整備され、活用されている。 校舎については非構造部材の耐震診断（本田技研工業の基準）の結果、補強が必要との判定を受け、平成 27 年 8 月に非構造部材の耐震補強工事を完了した。 また、設備、機器、教材についても中期経営計画に基づき計画的に最新機能を備えた設備の導入、実習車両教材および測定機器の更新を行なっている。	自動車整備士の第一種養成施設であるため、施設・設備について以下の指定基準を満たす必要がある。 (1) 教室の定員は原則として 50 人以下とし、教育を受ける者 1 人について 1.2 m²以上の広さを有していること。 (2) 実習場は、同時に教育を受ける者 1 人について 6 m²以上の広さを有する屋内実習場であること。 (3) 実習用機器設備 同時に教育を受ける者の人数に応じて適切な数の指定機器設備を保有すること。 (4) 教材 教材は、自動車の一般整備技術の教育に必要なもので、養成しようとする整備士の種類に対応したものが十分確保されていること。 ① 教材用の車両は、同時に教育を受ける者 10 名に 1 両以上備えること。 ② 教材用のエンジンは、同時に教育を受ける者 10 名に 1 基以上備えること。 ③ 教材用のエンジン関係主要部品、シャシ関係主要部品及び電気関係主要部品等は、同時に教育を受ける者に必要な数を備えること。

最終更新日付	令和元年 5 月 11 日	記載責任者	本多 章浩
--------	---------------	-------	-------

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	教育上必要な機器や設備を計画的に整備する。	中期経営計画に従って施設・設備を導入している。 学生数に対する教場面積、教材及び設備・機器等はすべて第一種養成施設指定基準を満たしている。 また、女子学生の環境改善のためにロッカーの移設・改善を推進した。	女子学生の修学環境の改善を図るためにトイレやロッカー等を更に改修する	事業計画
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	Honda の安全に対する基本的な考えである「安全なくして生産なし」に基づき整備する。	電気、空調、衛生、防災、昇降機設備は専門業者とそれぞれ業務委託契約を締結し、定期点検が実施されて正常な状態に保たれている。	課題なし	事業計画
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	中期経営計画に基づき施設・設備の更新を実行する。	中期経営計画に基づき教育上必要な機器や設備を計画的に整備している。	課題なし	事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車整備士の第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。 施設・設備のメンテナンスについては、専門業者に業務委託している。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	Hondaグループと連携し、学外実習、インターンシップ、海外研修において、安全かつ高水準の教育を提供する。	Honda Carsを中心に販売店でのインターンシップを展開している。また、本田技術研究所と連携し、研究開発分野でのインターンシップも行っている。海外研修は自動車研究開発科にて行っているが、米国ネブラスカ州で行われる学生フォーミュラSAEへの参加を中心としてロサンゼルス地区での研修も組入れた研修となっている。	海外研修は2018年度を区切りとして、新たな学科構成に合わせ見直しを行う。	インターンシップ受入企業一覧
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修等について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	学外実習、インターンシップ、海外研修において参加学生のアンケート調査や企業からの評価表により実績と教育効果を確認し、研修の改善に努める。	学外実習、インターンシップ、海外研修の終了後に参加学生のアンケートを実施し教育効果を確認している。またインターンシップにおいては、実習先企業から評価表の提出を受け、教育効果を確認している。	課題なし	インターンシップ評価表 海外研修レポート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められているため近隣のHonda販社や就職内定先の協力のもと実施している。 Hondaグループの強みを活かし、より良いプログラムへ進化してきている。	多くのHonda関連メーカーの協力を得て、学内においても企業様を招いた技術講習会を行っている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	「安全衛生活動計画」により防災組織、役割及び活動内容等を明確に定める。	体制が整備され、有効に機能している。	課題なし	安全衛生活動計画
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	設備・機器の新規導入時は、使用者への取扱い教育を行い、災害防止に努める。	新たに導入された設備・機器は、購入時に関係教職員全員に取扱い方法と共に伝達され、学生にも必要に応じて教育している。 また、設備・機器にマニュアルを備え付けている。	課題なし	
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は、十分か	実習開始前に十分な安全指導を行い、過去の事故事例を共有するとともに、個人の体調把握に努めることで安全作業を徹底する。	実習前に十分な注意喚起と準備体操を行っている。 教職員全員で他事業所の事例を含めた事故事例を共有している。 「安全なくして生産なし」 「3S（整理、整頓、清潔）」 「ヒヤリ、ハットシート」 を実習場等に掲示。	安全衛生員会で定期的に巡視していく	安全掲示物
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	保険加入により（建屋、設備、機器、書籍等）学園財産の毀損を最小限にすることを目指す。	火災保険に加入（特殊包括契約）している。	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	毎年の新入生への訓練を重視し、4月（避難訓練）と9月（防災訓練）に訓練を実施し、万一の場合の安全確保に努める。	毎年2回実施している。 地震や火災の災害発生を想定し、訓練内容を工夫することで防災意識を高めている。	課題なし	避難訓練実施要領 防災訓練実施要領

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災に対する体制は整備されているが、安全に十分という事はないので、定期的な見直しをより綿密に行い、学校の教育環境全般について安全防災教育を一層推し進めていく。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集活動の目標と方針 募集活動を取り巻く環境は少子化、大学全入時代、若年層のクルマ離れ等の理由で依然として縮小傾向にあり、先の読めない厳しい活動となっている。 本年度の方針としては、「学生数と質の確保」及び「定員の適正化」に重点を置き推進。 主な施策を以下に示す。 1. 地域密着型高校訪問による入学者数確保（エリアマネージャー） 2. 本田技研工業・販社との協力体制の構築 3. オープンキャンパスの刷新 4. 高校内で実施するガイダンスの強化 本校を取り巻く Honda グループの市場環境は、今後益々、整備士の需要が高まる事が予想される。 学生募集においては、縮小傾向にある整備士志望の高校生確保と販売会社の需要の高まりを受け、難しい局面に來ている。 こうした環境下における状況を分析し、学生募集戦略を明確化することで学生募集目標数の達成を目指している。	

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	本多 章浩
--------	----------------	-------	-------

7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	各科定員充足を目標に、学校活動を紹介する手段(学校案内、募集要項、オープンキャンパス等)を通じ、事実に基づく広報活動を展開する。	学生募集活動の実施例 ・体験型オープンキャンパスの開催 ・外部会場/高校ガイダンスでの説明 ・エリアマネージャーによる高校訪問 ・休日のオープンキャンパスや個別相談会	各科定員が充足できていないため高校との更なる絆作り。(入学実績校へのアプローチ強化)加えて、販社の求人に応えるための各地域での学生確保を行う。	方針書 施策系統図
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	出願対象者における、頻度の高い質問や保護者の視点で捉えた不安要素を的確に説明する。	学校案内には就職状況を明示するとともにQ&A欄を設け、募集要項には学納金、奨学金制度等を詳細に記載している。	高校生や保護者目線での更なる改定を推進中	学校案内パンフレット 学校ホームページ カレッジガイド
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	外部からの学校相談・入学相談に対し、的確に対応し学園に対する信用と信頼を得る。	ホームページやフリーダイヤルで受け付けし、志望者の問い合わせや相談に対応している。	課題なし	役割分担表
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	Honda グループの全国求人を見据えた募集活動を実施する。	Honda 及び販社との連携により、販社での体験会を推進している。また、地域に密着したエリアマネージャーが高校訪問を行なっている。	各県整備振興会やHondaが開催するイベントへの参画、学園祭でのPR活動を更に強化する。	募集活動報告書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
募集活動の対象である高校生、保護者、就職先企業の立場に立ち、法令順守はもとより、事実に基づいた広報を展開している。特に、遠隔地の販社の求人に応える必要があり、Honda及び販社と協力して学園への理解促進を図っている。学生募集活動及び広報活動においては、年度当初に活動方針、募集施策を打ち出し、その計画の下に予算化され、適正に運営されている。	外部環境の変化等により厳しい募集環境にはあるが、高校生の進路動向を的確に分析し、単年度の学生募集計画及び中長期学生募集計画を立案し安定した学園経営に繋がるように学生募集活動を行っている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に、伝えられているか	就職実績、就職先企業情報、卒業生の活躍情報などを、志願者や保護者に対して、複数の媒体で正確かつ適時に伝える。	過去5ヵ年の就職実績企業や国家資格の合格率はホームページで、紹介している。 学校案内にて卒業生の紹介を掲載している。	課題なし	学校案内パンフレット 学校ホームページ
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	CS調査やオープンキャンパス参加者アンケートから学園のブランド力を測り、学園の広報活動に繋げる。	CS調査や卒業生アンケート調査を実施し、一部学科（開発科）の説明資料に記載している。	将来の進路を具現化する為の、卒業生の活躍の様子を知らせる手法を更に検討していく	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。したがって、ホームページ上での公開等による資格取得率や就職率は学園の教育活動の信頼性を高めていると判断するが、その貢献度を数値化することで、より効果的な募集活動とする必要がある。	大学全入時代を迎える中で、国土交通省認定の職業訓練機関である自動車整備専門学校の教育評価を示し、数値化された実績だけでなく、卒業生や教育現場の声などを、現在以上に学校案内パンフレットやホームページで公開し、自動車整備への関心を高める活動を展開する。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考規程に基づき、適切かつ公正な入学選考を実施する。	AO入試及び推薦選考・一般選考ともに基準に基づき実施している。学生募集資格や入学選考方法は要項に明記し公表している。	課題なし	学生募集要項 ホームページ
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学選考基準、出願者数、合格者・不合格者数・辞退者数は明確にする。	毎年度ごとに数値を示すデータを作成し、データベース化している。 (推移は正確に把握している) 入試の内容は審査会にて審議している。	課題なし	入試出願状況一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
競合他校の入学選考方法が複雑化する中で、自動車整備士養成校としてのスタンスは変えず、その分野に必要な基礎計算能力と、推薦選考に関しては成績や欠席基準を明確に設けて、厳格に選考している。 また、応募条件も学生募集要項の中で明確に示し、入学希望者が混乱しないよう質問や問い合わせの対応体制を整えている。	学科試験免除のAO入試や推薦試験においても、全員の基礎学力確認を実施し、入学までの期間にフォローを実施し、入学後の導入授業がスムーズに行えるように取り組んでいる。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	教育内容や教育経費、他校情報をもとに設定する。	各科毎に学納金額を決めているが現在の金額で妥当と判断している。各種補助金は競合他校の状況も考慮して、導入を行なっている。	競合他校の状況を十分に把握し、常務理事会にて検討を進める。	学生募集要項
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者に対して、納付済みの授業料を適切に返金する。	入学辞退者について、授業料の返還は適正に処理しており、入学前に授業料を納付済みであれば、全額返金されている。	課題なし	退学者納付金返還規程
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学納金に関する情報を正確に記録保管する。	本校創立からの全科の学納金に関する情報を正確に記録保管している。	課題なし	学納金推移一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育内容や他校の状況、教育経費の変動を勘案して学納金額の見直しを行っている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	本多 章浩
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当面の財務基盤等は安定している状況ではないが、効率的な学校運営となる様に事業計画を立案、実施中である。	特になし。 参考資料：主要財務数値、予算書、補正予算書、監査計画書

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------------	-------	-------

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	帰属収支黒字化、自己資金による学校運営をする。	収支改善計画の立案を行い、実行している。	経費削減施策の検討が必要。	収支改善計画
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	財務システムにより、正確に把握する。	過去の財務データ一覧表により、状況分析が可能となっている。	課題なし	計算書類 総勘定元帳 予算管理表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
収支改善計画を立案し、施策を実行している。 状況に応じ、新たな経費削減施策も継続検討する。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-39-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会で承認可決された計画案に沿って実行する。	計画に沿って実行している。	課題なし	予算書、補正予算書
8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	計画に従って妥当に執行する。	予算管理システムによる内部統制を行っている。	課題なし	予算細目実績表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会で承認を受け、計画案に沿って実行している。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-40-5 財務について 会計監査が適正に 行われているか	外部監査人による監査を 実施する。	公認会計士により、毎年「当年度 事務処理状況及び財務諸表 各項目」について適正に監査が 行われている。	課題なし	監査報告書
8-40-6 会計監査を 受ける側・実施する側 の責任体制、監査の 実施スケジュールは 妥当なものか	責任体制を明確にし、監査を妥当 に行う。	監査計画による期中、期末監査を 実施している。	課題なし	監査計画書 監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部監査人による監査を実施している。	

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	嶋津 和真
--------	----------------	-------	-------

8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	積極的な公開の体制を構築する。	平成29年度ホームページにて公開している。	課題なし	
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	法令に基づいた財務情報公開の形式を整える。	平成29年度ホームページにて公開している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
	平成30年度については理事会承認後に公開予定。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	嶋津 和真
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、学校教育法第3条及び第128条の規定に基づき定められた「専修学校設置基準」と自動車整備士技能検定規則第6条の18に定める自動車整備士養成の第一種養成施設「指定基準」を厳正に遵守し、適正かつ適切に学校運営を行っている。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され適正な運営がなされているか	該当する法令等が遵守され適正な運営を図る。	監督官庁(文部科学省と国土交通省運輸局)の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなされている。	課題なし	「専修学校設置基準」
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業(株)の該当する諸規則と、学校法人に関する法令等の啓発活動を実施する。	本田技研の行動規範を配布している。冊子の配布に加え、DBに各章に分けた閲覧ページを作成し周期的に実施している。	課題なし	本田技研工業(株)行動規範

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。	監督官庁である文部科学省と国土交通省運輸局の厳正な指導の基に、学校運営が適正になされている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する。	教職員の転入時に、個人情報取扱い者教育を実施している。 電子メモリー機器は学校が提供するものに限定し、各科科長管理品の貸与制としている。	課題なし	
9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する。	教職員の転入時に個人情報取扱い者教育を実施している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報管理責任者、個人情報取扱管理者を指定し、責任体制を明確化している。	機密ゾーンを設けて出入りできる範囲を制限し、機密の徹底を図っている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	自己評価の定期的な改善を進める。	自己点検・自己評価報告書を用い定期的に確認することにより結果として自己点検評価のレベルアップに繋がっている。	課題なし	自己点検・自己評価報告書
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検・評価の方針を確立する。	自己点検・自己評価報告書を用い自己点検・評価を行い、学校関係者評価委員会にて第三者委員による検証を受けることとしている。	課題なし	自己点検・自己評価報告書
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	全教職員に周知する。	学校関係者評価委員会の指摘や自己点検・自己評価報告書を HP に開示し、全教職員が閲覧できるようにしている。	課題なし	自己点検・自己評価報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・評価に基づく、適切な学校運営を継続するため、学校関係者評価委員会（第三者メンバー）の意見を反映して進める。	

最終更新日付	令和元年 5 月 1 1 日	記載責任者	五月女 浩
--------	----------------	-------	-------

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	ホームページにて公開する。	ホンダ学園ホームページにて公開している。	課題なし	
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	公開に関する方針を確立する。	自己点検・自己評価の実施と公開を学則及び細則にて規定している。	課題なし	
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	学校関係者評価委員及び教職員に対して公開を正確に伝える。	学校関係者評価委員会及び方針説明会にて、公開を説明している。	課題なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
公開方針・方法等の検討を行い、ホームページにて公開をした。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当校は、「社会貢献の心と行動力を育む」を育成方針に掲げており、この実現に向けて、学校としての実践と学生による実践を目指して活動している。 地域社会の一員として、大阪狭山市とその関連団体を中心にホンダ学園としての取り組みを実践している。 また、環境貢献として、学校敷地内に太陽光発電システムを設置し再生可能エネルギーを利用することで二酸化炭素低減活動を実践している。 学生の取組みとしては、地域社会への定期的なボランティア活動の実践により、育成方針の実践に向けて取り組んでいる。	【環境に対する取り組み】 平成20年10月に開始21種類のゴミの分別活動を継続している。 平成23年4月 新校舎（4号館）へも出力40KWHの太陽光発電装置を設置し、更なる環境への取り組みを強化する。 平成25年3月～平成27年8月 照明器具のLED化を実施。 5月～10月クールビズ活動を実施。 【社会貢献事業に対する取り組み】 寮行事及びオリエンテーションとして、市内清掃を春秋季に毎年実施している。 また、日本赤十字社の呼びかけによる献血活動に毎年2回参加している。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-1 広く教育機関 企業・団体、及び地域 との連携・交流を 図っているか	地元の小中高校及び企業・団体からの要請に全面的に協力する。	地元高校生の進路見学会授業の受入れを行っている。 地域住民の学園祭招待活動を行い、施設や新型車両見学も含め教育活動の理解促進を図っている。 環境講話に高校教員招待活動を行っている。	課題なし	
10-46-2 学校の資源を 活用し、生涯学習事業 や雇用促進への支援を 行っているか	市等が行う生涯学習事業には全面協力する。	平成30年度は市等からの生涯学習事業の要請はなかった。	課題なし	
10-46-3 学校の施設・ 設備を開放するなど、 地域社会と連携して いるか	地元の企業・団体からの施設貸し出し要請は、積極的に受け入れる。	大阪府自動車整備振興会の整備士試験会場として校舎を提供している。 販売会社及び本田技研の技術コンテストに校舎及び教材を提供している。 警備会社の研修に施設を提供している。	課題なし	
10-46-4 諸外国の学校 などと連携し、留学生 の相互の受け入れ、 共同研究・開発を 行っているか	社会の国際化を見据え、要請に対して連携を推進する。	留学生を受け入れ社会に輩出している。留学生教育の促進のために、3年制の自動車整備留学生科を新設し、一期生として28名を育成し全員3級ガソリン自動車整備士に合格した。また二期生として47名の入学者を得た。	課題なし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓発活動を行っているか	交通四悪、喫煙対策、ドラッグ問題、いじめ問題、環境問題等について、学校として、学生及び教職員の意識を高める啓発活動を行う。	交通安全講話、長期連休前の私の決意活動を実施。オリエンテーションにおいて喫煙、ドラッグ問題、いじめ問題への注意喚起実施。いじめ防止対策委員会を開催。環境講話実施。「ゴミの21分別」による徹底した資源回収、市内清掃活動、省エネ活動を学生と教職員が一体となり実践し、環境問題に対し意識を醸成。禁煙プロジェクトを継続し、休日前の禁煙タイムを導入。	課題なし	ホームページ
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	交通四悪撲滅を主要対象として啓発活動を行う。	過去の学生の二輪死亡事故を教訓として「生命の大切さ、交通法規・学校規則の遵守」を全校学生に対し直接に訴えるオリエンテーションを実施。1年次の4月と11月に鈴鹿交通教育センターでの安全運転講習会を実施。黒山警察署の協力により6月に校内講演会を実施。	交通三悪による重大交通事故のゼロ化	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
環境問題に積極的に取り組んでおり、今後も啓発活動を積極的に実施し更なる定着を図る。 本学園の教職員と学生において、自動車業界に就く者として交通事故、違反に対する高い意識が必要である。将来啓発、指導する立場となることを自覚させるために多くの施策を行っている。 喫煙については、校内の喫煙所を限定し、登下校時の指導も行っている。	自動車産業で期待され、活躍する人材を輩出するためには、環境意識のレベルアップが必須であり、ソーラー発電や資源リサイクル等を日頃から目にし、意識を高める環境作りを行っている。

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学校として、学生にボランティア活動への情報提供を行うと共に、ボランティア活動を支援する。	市内清掃などの地域ボランティア活動を学校として継続して計画し、地域に貢献している。より参加し易くするためにオリエンテーション授業の中での清掃活動を実施している。 年2回の献血活動を実施してい	課題なし	ホームページ
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	善意で実施するボランティア活動を認め褒めることで、更なる活動意欲を醸成する。	学生の善行表彰制度を拡充し、新たな参加者の獲得と学校全体の雰囲気作りを推進している。	課題なし	ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校としてのボランティア活動として、学生及び職員が定期的に地域清掃活動や献血活動を行っている。 「自発的なボランティア活動が新しい人との出会いと理解を生み、自らの人生をより豊かにすること」の啓発活動を継続し、更に多くの参加者を獲得していく。	

最終更新日付	令和元年5月11日	記載責任者	五月女 浩
--------	-----------	-------	-------